



あさかわ まちづくり ニュース

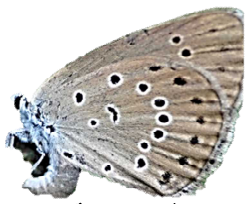
長野市浅川地区住民自治協議会 まちづくり計画推進委員会
令和元年8月1日 第20号 委員長・山田 潤 編集・北條昭吾

7月23日、信大工学部土木教室が八榎神社の実測調査

八榎神社(ブランド薬師)の古文書に基づいて調査を進めている信大工学部土木教室(教授と学生)は6月4日の古文書撮影に続き、7月23日は設計書・設計図に基づく実測調査を行う事になりました。実測調査は神社の下に潜りこんで材質を確認するなど本格的なもので、1日で終わらないかもしれないとの事です。なお当日は、氏子関係・保存会・住自協の関係者が立ち会います。



長野市霊園のチョウ・ゴマシジミの発生は7月20日過ぎか！



ゴマシジミ

環境省のレッドデータリスト1Aに指定されているチョウ「ゴマシジミ」の生息地、長野市霊園では、霊園職員・浅川住自協など関係者の保護活動は4年目に入りますが、ゴマシジミの発生は7月20日すぎに予想されます。

ゴマシジミの食草のワレモコウは浅川小学校児童によって育苗され、保護活動関係者による植え付け、霊園での密猟者防止パトロール、監視カメラの設置などゴマシジミの保護活動によって発生数は年々増加の傾向を示しています。

浅川小学校紙芝居クラブが介護施設でお年寄りを前に紙芝居上演！

浅川小学校の児童でつくる紙芝居クラブ(7人)は、7月4日(木)浅川東条の介護施設ケアハウス フォンティヌのお年寄り14人を前に紙芝居を上演しました。

紙芝居クラブは、紙芝居ボランティア「にこにこ一座」のアドバイスをを受けて、自分たちが選んだ紙芝居の練習を重ねてきました。

紙芝居は「こそだてゆうれい」「いなむらの火」「おだんごころころ」の演目を上演、施設としての紙芝居上演ははじめてとあってお年寄りは、児童の演ずる紙芝居に真剣に見入っていました。上演した児童は「お年寄りが真剣に見てくれたので楽しかった」と感想を述べていました。



長野県立大・田村秀(しげる)教授が朝日新聞全国版で

「地域に埋もれた資源」「身近な宝 見いだして」とブランド薬師紹介

長野県立大の田村教授は、6月20日の朝日新聞13面全国版、オピニオンフォーラム「地域季評」コーナーに地域に埋もれた資源として「身近な宝 見いだして」と題し「ブランド薬師」を取り上げています。



田村 秀

地域季評

田村秀 教授
1963年、長野県上田市生まれ。1985年、信州大学経済学部に入学。1989年、同大学経済学部経済学専攻で卒業。1991年、同大学経済学部経済学専攻で修士号取得。1993年、同大学経済学部経済学専攻で博士号取得。1994年、同大学経済学部経済学専攻で助教授に就任。1997年、同大学経済学部経済学専攻で教授に就任。2000年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2003年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2006年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2009年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2012年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2015年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2018年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。2021年、同大学経済学部経済学専攻で学部長に就任。

記事の中では「全国を飛びまわる中で、魅力的な地域の宝に出会う事も少なくない、新たな時代の地域の宝さがしはこれからである」と岩穴に3本の横柱の上に立つ八榎神社の特徴を述べたうえで、「同じ懸け造りの鳥取県三朝(みささ)町の国宝・三徳山三仏寺投入堂(なげいりどう)に決して負けない」と意見を述べている。

新潟大学法学部長などで14年間新潟に住んだ経験から「新潟の川の立体交差、新川のトラスト橋。長岡市の旧山古志村の手掘りトンネルとしては日本最長の中山隧道の経緯にふれ、ブランド薬師と川の立体交差、そして中山隧道に共通するのは地域住民の力で難工事が成し遂げられた。どれも地域に根差した人々の願いと努力の結晶が実ったものである。」と経緯に触れた上で、「地域の宝は、必ずしも万人向きである必要はない。大事なことは、仮に外部の人間が先に宝の佳さに気付いたとしても、地域の人々もその価値観を共有して、自分たちの宝とし

て磨く営みを続けることだ。地域の人々に支えられてこそ、地域の宝は長きにわたり光り輝くと結んでいる。

田村秀教授は、今年5月5日の八瀬神社（ブランド薬師）春季例大祭に参加「浅川は私の中では桃源郷のイメージがある」と述べられ、「ブランド薬師」を全国に発信していきたいと発言していました。

真光寺・浅川でのホタル 7月1日から3日間は1日100匹が飛翔

真光寺の浅川でのホタルの発生が確認されて4年目、今年もホタル見学会を6月23日から7月6日まで開催、昨年より多いホタルが発生、見学者でにぎわいました。



見学会を運営している「チームフロンティア・浅川」などのボランティアが6月27日にホタルの発生を確認、6月28日は30匹が飛翔、その後飛翔数が増え7月1日から7月3日が1日当たり最高の100匹が飛翔しました。

5月に浅川の川の中に生える木の伐採が行われ、ホタルの発生を危惧する声が寄せられていましたが、発生数が昨年より増えたことに関係者はほっとしていました。

6月27日発生し始めた真光寺南の浅川ホタル見学会準備、

9月20日頃アサギマダラ飛来に備え「ダム・フジバカマ苑」草刈り

「チームフロンティア・浅川」のメンバーは、真光寺の浅川ホタル発生地の見学会準備「浅川ダム・フジバカマ苑」の草刈りに汗を流しました。

6月17日（月）浅川一之瀬橋下流左岸側の「浅川ダム・フジバカマ苑」では、坂中の小池信良元区長が自走草刈り機を持ち込んで、伸びた草刈りと右岸の菜の花植栽予定地の草刈りを2時間ほどかけて綺麗にしました。



6月23日（日）「チームフロンティア・浅川」の15人は、真光寺の浅川ホタル発生地の見学会準備で幟旗とテントの設置を行いました。ホタルの飛翔は7月6日頃まで見られました。

ホタル見学会準備に引き続き「浅川ダム・フジバカマ苑」に移動して斜面の草刈りをするなど、ボランティアの女性も応援に入り、9月20日過ぎアサギマダラの飛来に備えて準備をしました。昨年は、アサギマダラの飛来は9月23日に確認されました。

7月27日の浅川ダム祭りに向け、第11回浅川ダム利活用懇談会

県浅川改良事務所の呼びかけで行っている第11回浅川ダム利活用懇談会は市浅川支所、浅川住自協が出席して6月25日（火）に行われ、7月27日（土）今年度3回目の浅川ダム祭りのイベント内容を検討しました。



浅川住自協が行う農林産物販売を始め、県浅川改良事務所が「森と湖に親しむ旬間」として行う第3回浅川ダム祭りは、ダム探検のほか、ドローン体験・市民吹奏楽演奏・長野高専サイエンスツアー・綿アメとクワガタ無料提供・カブトムシ販売・ぬり絵などの盛りだくさんのイベントに取り組むことになりました。

県森林税活用事業など論議「あさかわの里山と森を守る会」総会開催

令和元年度「あさかわの里山と森を守る会」総会は、6月28日（金）関係者23人が出席して開催され、令和元年度の事業方針、副会長1名増の役員体制を決めました。



総会では、3年間続いた「1支所・1事業」が終了、今年度からは県民税を活用した里山整備事業を行う、3月には台ヶ窪地区が事業対象に指定された。社会福祉法人との林業・福祉連携。イベント参加・地区内活動団体との連携等を決めました。